

# 平成25年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園運営事業			会計	款	項目	大	小
				01	03	02	07	02
01	03	02	07	02	01			
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	障害者支援課			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	小西 和典			

## 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね3歳から18歳未満の児童とその保護者（通園児は3歳から6才児）	意図	障害の程度及び子供の障害を保護者が受容し、必要な療育支援を受けることによって児童の全体発達を促す。
事業内容	つばさ学園の利用定員は30名である。月曜日から金曜日まで通園バスを利用し登園し、集団活動をする。基本的な生活動作、心や体を育て、児童の社会的自立と地域での生活に向けて支援する。			
事業開始から現在までの状況変化	昭和52年マザーズホームから知的障害児通園施設つばさ学園（認可施設）となる。平成24年4月より経過的処置としての児童発達支援センターとなる。現在は、心身の発達に遅れのある就学前の幼児の全体発達を目指して療育支援や理学療法などを行っている。また、医療的ケアの必要な重複障害児の受け入れも行っている。			

## 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	延べ利用人数		4,527	5,907	5,411	人	
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						
事務事業のコスト	平成23年度	平成24年度	平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度も定員（30名）であった。重複障害児で医療的ケアが必要な児童が1名入園し、在園児とあわせ2名の園児に対応した。（喀痰吸引、胃ろう）</li> <li>・保育所との並行通園児3名</li> </ul>			
事務事業の総コスト(a=b+c)	144,635,862	133,842,442	138,124,538				
事業費（b）（円）	29,950,632	34,760,682	34,374,138				
うち一般財源	29,950,632						
職員給与と費(c)(円)	114,685,230	99,081,760	103,750,400				
人役・職員(人)	13.35	12.05	13.00				
人役・再任用(人)	5.67		1.00				
人役・臨職(人)		8.41	6.40				
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト（円）（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
総合評価	拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					
					コストの削減	A 削減の余地はない

### (2) 事務事業の業務改善について

今年度(H25)の改善計画	児童発達支援センター化に向けて、児童発達支援管理責任者・相談支援専門員研修に参加させる。新規採用職員に対する研修等の実施を行う。	取り組みの課題	平成27年度より児童発達支援センターとなるための条例の制定、運営規定等を策定する。また、施設拡充のための準備を行う。
今年度(H25)に実施した取り組み	児童発達支援管理責任者・相談支援専門員の資格を取得させた。発達協会や千葉県通園施設連絡議会などの研修に参加させた。	今後の改善計画	近隣市の現状を調査し、具体的取り組みを行う。社会福祉課と協力し、施設拡充（増設）の設計等を検討していく。